

（午前9時30分 開議）

○議長（小林 弘君）皆さま、おはようございます。

ただ今の出席議員数は17人で定足数に達しております。

○議長（小林 弘君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（小林 弘君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、3番 南出君、14番 樽井君の2人を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（小林 弘君）日程第2 一般質問を行います。

順番7、4番 森下君。

〔4番（森下伸吾君）登壇〕

○4番（森下伸吾君）おはようございます。2日目のトップバッターですので、どうかよろしく願いいたします。

ただ今、議長のお許しを頂きましたので、通告に従い、一般質問を行わせていただきます。

今回の一般質問としまして、デジタル田園都市構想に関する取組の推進についてお聞きいたします。

少子高齢化や人口減少の進展により、あらゆる現場で人手不足や後継者不足が叫ばれる中で、新しい地域社会の構築は地方自治体にとっての喫緊の課題となっています。

現在、政府のデジタル田園都市国家構想への取組をはじめ、社会のデジタル化への流れが加速する中で、誰ひとり取り残されないデジタル社会の実現をめざして、地域の課題解決に資するデジタル化を適切かつ迅速に推進し、全ての住民がその恩恵を享受できる社会を構築する時代が到来しています。

そこで、本市としてどのようにデジタル化構想に向けて取り組んでいくのか、当局の見解をお伺いしまして、壇上からの私の1回目の質問といたします。

○議長（小林 弘君）4番 森下君の質問、デジタル田園都市構想に関する取組の推進に対する答弁を求めます。

総合政策部長。

〔総合政策部長（土井加奈子君）登壇〕

○総合政策部長（土井加奈子君）おはようございます。

デジタル田園都市構想に関する取組の推進についてお答えします。

本市におけるDXの推進については、デジタル技術活用による市民等の利便性の向上や行政事務の効率化等、庁内で横断的に取り組む必要があるため、橋本市DX推進本部を設置し、行政手続きのオンライン化、情報システムの標準化・共通化、マイナンバーカードの普及等を進めています。

国では令和4年6月にデジタル田園都市国家構想基本方針が示され、デジタル技術の活用により、地域課題の解決と地域の個性を生かした持続可能な経済社会をめざすため、防災、医療、子育て、教育等の様々な分野での取組を推進することとしています。

現在、本市の今後のデジタル化の推進方針や事業を示した橋本市DX推進計画を策定し

ているところです。デジタル田園都市国家構想の方針や各省庁での取組を参考に、本市の各分野の課題に対するデジタル活用を検討し、必要に応じて推進計画に反映していきたいと考えています。

○議長（小林 弘君）4番 森下君、再質問ありますか。

4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。

それでは、ご答弁を頂きましたので、再質問をさせていただきたいと思えます。

昨日の11番議員の質問とかぶるところもありますが、昨日の質問はどちらかという行政内のDXに関する事、特にマイナンバーに関する事でございますので、それ以外のご事でお伺いさせていただきたいと思えます。

ですので、行政手続き内部以外のDXでの各分野の取組、橋本市での取組とかいうのがあれば、教えていただきたいと思えます。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）まず、行政手続きのオンライン化というところで、一点お話しさせていただきたいところがあります。

デジタル田園都市国家構想を支えるデジタル基盤の一つに、昨日もお話しさせていただいたマイナンバーカードがあるんですけども、このマイナンバーカードを利用して、オンライン市役所のサービスを充実するために、令和4年度中に引っ越し手続きのワンストップ化を含めた36の手続き、子育ての手続きであったり介護の手続きであったり、そういう36の手続きにおけるオンライン化を今年度中に構築するように進めております。これは国が定めているものでございます。

本市としてはマイナポータルのびったりサービスというのを活用しようということで、今、構築中でございます。

ちなみに、その他、マイナンバーカード以外のことで市民の利便性を高めるということで、例えば現在しているのが、図書館の図書貸出しの予約でありましたり、それから、文化スポーツ施設などの利用の予約、それから、一部のイベントでウェブ入力できるようなフォームをつくりましてオンライン受付をしたり、それから採用試験の申込みをしたりと、これも住民の利便性が高まるということで、国のほうから市町村に向けて推奨される事務の一つでございます。

今のところはこのような状況であります。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。

そうしたらワンストップにも向けてということですので、住民の方があちこち回らなくてもワンストップで済むというような構築もしていただけるのかなというふうに思いますし、オンラインでも申請ができるということですので、その辺は市民の方の利便性が高まるというふうにも考えられます。同僚議員もよく言っていましたお悔やみコーナーとかにも近づくんじゃないかなとは思えます。

では、それが内部に関することでありますが、例えばそのほか、外部に関する事で何か取組があれば教えていただきたいと思えます。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）この秋に全庁的に取り組ませていただこうと思っておりますところがあるんですけども、そこは官民連携で、市民の皆さんも一緒に取り組んでいただきたいということで、テレマティクスという技術を使いまして、安全運転エコドライブ、それから、デジタル技術に触れてもらうことを目的に、ご自身の車やそれから公用車にタグを搭載していただきまして、それから、自分のスマートフォンにアプリを入れていた

だいて、安全運転であったり、それからエコドライブであったりというところのチェックをしてくれる機械、車載器がございまして、それを載せることによりまして、安全運転であったり、それからエコ運転であったりというところの啓発にもなりますし、それから、情報を集約しまして、セーフティードライブ・アンド安全マップというのを作成する予定をしております。これは9月広報でも住民の皆さまに呼びかけておるところです。ですので、また議員の皆さまにもご協力いただけたらと思います。

11月の1か月間の走行データを収集することによりまして、急ブレーキとか急発進などのチェックができましたりとか、あと、それを地図に落としして安全マップを作成する、こういった取組になります。これは職員にも呼びかけて、それから住民の皆さまにも呼びかけて、できるだけ多くのデータを集めてマップに落とし込みたいと考えております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。

テレマティクスというシステムといいますか、それをもう導入されているということですね。現在もう取り組んでいらっしゃるということで、9月広報に載せていただいたということやったと思うんですが、申し訳ないです、ちょっとはつきりと私もそこを見落としていたかも分かりませんので、我々も知らないことも多いと思いますので、もう少しこの広報について、せっかくやっていただいているのであればもう少し広報を、難しいとは思いますが、ホームページとかでも載っておるとは思いますし、その点、これ料金がかからないとは思いますが、その点のこととか、チラシなんかがあれば我々議員にも頂きたいとは思いますが、その点はあつたりするのでしょうか。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）チラシも作成いたしましたして、また議員の皆さまにもお配りさせていただきたいと思います。

これは橋本市が包括連携協定を組んでいますあいおいニッセイ同和損害保険と一緒に連携してさせていただく安全マップ作成のイベントという形にはなるんですけども、もちろん、車載器を置いていただいても何ら費用がかかることはなく、市民の皆さまにもご協力いただくことができます。

日常走っている道を走って運転していただくだけで、ちょっとした点数が出てきて、何点という評価を受けることができ、それで自身の安全運転などの確認ができるということと、そのデータについてはあいおいニッセイ同和損害保険がデータを集約していただいて、マップに落とし込んでいただくという、そういうシステムになってございます。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）その点は官民連携といえますか、その点を協力しながらやっていただいていると思うので、運転者にとっても自分の運転を見直すきっかけになると思いますし、行政にとってもそういう安全マップのような、いわゆる安全な、ここが危険やよというような、よく急ブレーキが踏まれるようなとこやよというような、そんなような形のマップが出来上がってくるのではないかなとは思っているので、いいかなと思いますので、これはもうもちろん、もう公用車にはもう全て貼っているような、貼っているというか、端末がちょっとどんなのかイメージできないんですが、どんなものかというのがあつたと思います。公用車はみんなもうもちろんですし、例えば、もうこれはやっぱり、職員がちょっと率先してつけていただきたいと思いますが、その点はいかがですか。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）一応500台ほどはお借りできるということで進めておるんですけども、職員のほうにも今、通知をしたばかりなので、これから職員のほうにももっと啓発をしなければいけないと思いますし、公用車のほうには順次取り付けていきまして、市職員の安全運転、事故防止にもつながればと思っておりますので、できるだけ多く活用できたらいいと思っております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）公用車へつけていただいたら、それだけ職員の方も、ついでなのであればやっぱり安全運転せかんというふうにも思うと思いますし、ただ、500台だとも職員で全部埋まってしまうんじゃないかと思えますから、500台で本当にそれでよかったのかなというのはちょっと疑問に思うところはありますが、もし追加で借りられるんだしたら、また増やしていただければと思います。

もう始まっているんでしたら、11月までですからもうあつという間でしょうから、その辺は早く取り組んでいただければと思いますし、もう公用車へ早速をつけていただいたらと思います。

そういったことも踏まえながら、デジタル田園都市構想というのが今、国では進められております。どういったものかというのがなかなか理解されづらいと思いますので、この後ちょっと動画を見て、ちょっとお話をさせていただこうと思いますが、このデジタル田園都市構想を受けて、全国ではいろんな取組をされております。

その取組を皆さんから募集して、各自治体から募集して、この夏、D i g i 田甲子園というのが開催されまして、それで、その中で優秀賞とか、そういうのも開催されて、もう今、発表されております。

ですので、全国でもう159件のもうそういう取組をされているということなので、橋本市として果たしてこの辺どうかと、スピード感どうなのかなというのもちよっと考えられるところもありますので、その点も踏まえて、その事例もちよっとこの後見ていただこうと思うので、各分野において、ちよっといろんな分野が見ていただけるとと思いますので、その後、各部長にもお聞きしたいなと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、画面を見ていただいて。

これ先ほど言いましたD i g i 田甲子園です。D i g i 田甲子園のホームページになりますが、ここに書いていますように、総勢159件ものアイデアが投票されました。それによってこういうふうな、内閣総理大臣賞とか、そういったことも表彰されたということがあります。

それでは、先にデジタル田園都市国家構想についてちよっとお話をしたいと思います。これ政府がつくったものですが、皆さんはデジタル田園都市国構想をご存じでしょうか。デジタル田園都市国家構想とは、デジタル化によって、各地方の様々な社会課題を解決しながら、地域の魅力を向上させようという取組であります。それぞれの地方が個性を生かしながら活性化していくことで、日本全体が成長することをめざしています。今、地方には三つの不があります。不便、不安、不利という問題があります。そこで、デジタル化の出番であります。デジタル技術を医療に活用すれば地域の健康を支えることが可能ですし、また、どこに住んでいても学びやすい教育現場を実現したり、地域を支える産業の振興や起業を促すことができます。地方の三つの不を解消し、全国どこでも、誰もが便利で快適に暮らせる社会をめざす取組が少しずつ始まっています。

具体的なものを見ていきたいと思います。

まず、自動運転の導入であります。茨城県柴郷町では、地域の中はもちろん高速バスの乗り場や観光地にも自動運転バスで簡単にアクセスできるようになりました。愛知県春日井市では、自宅からスーパーマーケットやバス停など近距離の移動をサポートする自動運転車両の実験が始められています。山梨県小菅村では、ドローンによる日用品を配送するサービスが始まりました。車で片道40分かかりますが、ドローンが導入されたことによって、急ぎの買物や移動が難しい高齢者の買物も便利になりました。

このように、国がめざす方向を示して、地方を支援します。そして、地方はめざす理想像を描きながら、自主的、主体的に取り組んでいきます。デジタルの力で地方が日本の主役になる、そんな未来が始まっています。

ハード、ソフトのデジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保、誰ひとり取り残さないための取組、そして、デジタルの力を活用した地方の社会課題の解決、こうした取組を通じてデジタル田園都市国家構想を全国に今、展開しているところであります。

こういった国の方針を受けて、それぞれの各自治体でもう既に始まっているということで、まず最初に、福祉部門についてちょっと見ていただければと思います。持続可能な公共交通について、富山県の朝日町というところがあります。ここがそういった取組をしていますので、見ていただければと思います。

富山県朝日町からデジタルを活用した新しい交通サービス、ノッカルあさひまちを紹介したいと思います。高齢化率が44.6%に至り、マイカーを持たない高齢者が多く住む朝日町では、持続可能な交通インフラが必要とされていました。

ノッカルあさひまちは、住民、自治体、交

通事業者がみんなで作る公共交通。使うのは住民のマイカーになります。ドライバーは自分のおでかけ予定をノッカルに登録します。利用者はLINEを使って予約します。利用当日、予約した時間に車が到着して、お互いを確認して出発します。目的地で利用者を降ろしたら、ドライバーはそのまま自分の目的地へ向かいます。町に元からあった交通の穴を埋めて、バスやタクシーとも共存できるサービスです。

現在、ドライバーは30人。これまでに2,000人以上が利用されてきました。一人当たりの運行コストはバスの約半分、乗る人が増えれば増えるほどコストが下がります。ノッカルシステムはほかの地域でも実装が可能で、全国各地で注目されています。住民同士が助け合う公共交通として、これからも進化しているのがこのノッカルあさひまちという取組であります。

これが福祉で取り組まれていることのひとつであります。

では、次、教育部門についてちょっと見ていただきたいと思います。子どもたちの安全を確保して、ITを活用して地域全体で見守りを構築した福岡県粕屋町というところの取組をお伝えしたいと思います。

見守り端末を携帯した子どもたちが見守りポイントの範囲に入ると、見守り端末からの信号をキャッチして、位置が記録されます。地域の様々な場所で位置情報を記録していくことで、子どもたちの日頃の行動の見守りや、もしものときの迅速な捜査の手助けをするシステムであります。

見守りのポイントは、子どもたちが通る通学路の電柱、店舗、公共施設などに設置されています。また、地域の方々のスマートフォン等によって、見守り人というアプリをインストールしてもらうことによって、そのスマー

トフォンも動く見守りポイントになります。

見守りポイントを増やしていくことにより見守りネットワークを町内に構築して、子どもたちが安全安心に暮らせるまちをつくっているのが、この取組であります。粕屋町の取組でありました。

最後に、経済推進部に関して、有害鳥獣の捕獲を効率的に実施している、わな監視システムを導入した福岡県飯塚市の例を取り上げたいと思います。

飯塚市ではイノシシや鹿による農作物の被害が年々増加しており、有害鳥獣捕獲頭数は、令和2年度が2,050頭、令和3年度が1,920頭となっています。有害鳥獣捕獲従事者の高齢化に加え、従事者数も年々減少していることから、従事者の負担軽減を目的として、わな監視システムを導入しました。

センサーの取付けが少々面倒ですが、単純な仕組みなので捕獲員の理解も早いということでもあります。おりの入り口にセンサーをつけて、おりの入り口がこのように閉まったら、メールでその方にお知らせするということです。ですから、家に居ながらにして通知が来るので、無駄な見守りが減ることです。これからの有害鳥獣の対策になくならないアイテムとして、福岡県飯塚市では取り組まれております。

動画は以上になります。以上のような取組がそれぞれでされております。

いろんな150にも及ぶ事例がありましたので、私も見ていたら、もう1日見られるような内容でもありましたので、すごくうちの、ほかの市だけじゃなしに橋本市でもできるような内容があったんじゃないかなというふうにも思います。

そういったことも踏まえて、どうでしょう、今、福祉部のほうでも乗り合い交通もありましたけども、ほかにも見守りの子どもたちの

あれも、認知症のお年寄りの方につけてということもできると思いますので、そういった面で、健康福祉部のほうでその辺はいかがでしょうか、デジタル化に関して。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（久保雅裕君）各市町の取組、すばらしいものだと今思っております。本市においても今の事例を参考に、取り組める部分についてはまた見習っていきたいと思っています。

現在、健康福祉部が取り組んでいるのはデジタル化というところですが、今、コロナのワクチン接種とか若年者の乳がん検診などはウェブで予約できたりしています。

それから、市民からとか介護施設からいろんな申請書がございますが、それをメールで受け付けしたり、それから、いきいきルームのキャッシュレス決済なども導入しています。

また、先ほどもありましたように、認知症の方が行方不明になったときは、現在、衣類や所持品に2次元コードをつけていただいて、それを読み取った時点で関係者の方にメールで送致して、現在どこにいるかというのをウェブ上でやり取りできるということも取り入れています。

それから、各種講座や個別相談などはウェブで申込みできるような仕組みをつくって、一部ではありますけれども、取り組んでいます。それから、国民年金ですけども、マイナポータルの手続きの電子申請などもこの4月から活用しております。

今後は健康福祉部の取組の一つとして、LINEを使ったヤングケアラーの相談窓口の設置や、生活保護の方の医療券というのが現在紙で発行している状況ですが、令和5年度中にはマイナンバーカードを使ったオンライン資格の確認ということで、マイナンバーを医療機関にも提出していただくことで、対応

する医療機関ではその資格をマイナンバーで確認できるというところを取り組んでいます。

議員ご提案あった件につきましては、ほかの事例も参考にさせていただいて、部内の中では取り組める部分がないかは探っていきたいと思っております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。いろいろまた取り組んでいただいています、さらに進めていただければというふうにも思います。

それでは、2番目にありました子どもたちの見守りとかそういった面で、教育関係に関してはいろいろと取り組んでいただいておりますが、さらに今のような見守りの取組は、さらに今、教育部のほうで考えていらっしゃる、そういったデジタルに向けての取組なんかがあれば教えていただければと思います。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）ただ今の議員のおただしにお答えいたします。

先ほど見せていただいたデジタルの見守りというのは、見せていただいた中で、有効な見守りの手段の一つかなというふうにも思いました。

ただ、今現在、橋本市におきましては、子どもたちの登下校について地域の方に見守りを協力していただいているところでございます。そういうふうな地域の皆さまの助けがございまして、現在のところはそういうふうなデジタル化については考えていないところです。

教育委員会のほうでは、皆さまご存じのとおり、小・中学校において、国のGIGAスクール構想に伴い、児童生徒一人ひとりにタブレットを購入、また、授業支援システムを導入し、ICT支援員を配置することで、より効果的な活用を図っています。また、今年

度はさらに学習効率の向上を図るため電子黒板を購入し、8月下旬に各校に配置したところと

また、生涯学習課では社会体育施設、中央公民館では教育文化会館、産業文化会館、温水プール、隅田地区公民館では東部コミュニティセンターについてインターネット予約システムを導入し、今年4月から運用を開始しているところでございます。

また、それ以外のことにつきましては、また教育委員会内でしっかりと検討していきたいと考えています。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）見守りサービスに関しましては、くしくも私は平成25年6月の一般質問で、登下校メールサービスの導入を訴えさせていただいたことがございます。

子どもたちが校門を通ったときに、そのセンサーをつけていることで保護者に対してメールが送られるというシステムでありましたが、兵庫県などではよく取り入れられていたんですが、導入には大変コストがかかるということで断念せざるを得なかったということですが、ただ、やっぱりこれを見ますと、ほかの自治体で今できていると。状況は変わっていますよね。今はスマートフォンもこれだけはやっていますし、アプリもあります。

さらには、端末と言っても各それぞれの地域、さっきありましたように電柱とか公共施設とかでも置けるということでもありますので、そんなにランニングコストがかからないというのもあります。これ同じようなシステムを和歌山市でも取り入れられています。

今、橋本市では、見守りの方々がそれぞれ角に立って見守っていただいているのは本当にありがたいことなんです、ただ、やっぱり先を考えますと、分かっているらっしゃると

と思いますが、もうご高齢の方がたくさんいらっしゃるにしまして、この後何年かされて、同じようをお願いできるかなというたら、ちょっと疑問に思うところありますよね。

やっぱりそういったところで、先を見据えてこの辺も考えていかないといけないんじゃないかなというふうに思いますので、どうかこれをスタートとして検討していただければと思います。

では、最後に、わなのこともありましたので、経済推進部にお聞きしたいと思います。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）経済推進部から、農業のことについて一つ例を挙げさせていただきます。

令和3年度に国の補助を受けて農産物生産管理システムの開発を行いました。農家の方から、高野山麓精進野菜を取り組む中で、作業履歴の管理であるとか、それから、特に農薬散布や肥料の管理等が非常にハードルが高いと。そういった中で、一体的に管理できるような、そういったシステムがという要望も頂いたところです。

スマートフォンやパソコン、それから、先ほど言いました農薬散布や肥料をどれだけやったかなどを入力するだけで、お米や高野山麓精進野菜の品目の作物ごとの農薬の適用や化学農薬の散布回数といったような、そういったことが自動計算される仕組みとなっています。

農家の負担がこれらによって本当に軽減できるのではないかなというふうに考えています。もちろん、納品する際の帳票などのアウトプット印刷も可能となっています。

まだ農家の方が試験的に運用しておって、いろいろ課題、小さな修正等もしながらなんですけど、実用的で、利用することがよい等という状況を早急につくって、多くの農家の方

に利用していただいて、そういった利用の啓発、また研修等を行っていく予定です。

もう一点ですが、今、キャッシュレスキャンペーンをコロナ対策の事業者支援の一つとして取り組ませていただいていますけど、そのキャッシュレスキャンペーンの中では、取引額、それから利用ユーザー数、一人当たりの利用回数、もちろん橋本市民の利用者数、それから橋本市民以外の利用者数、利用者の年代、それから年代別の利用者数の伸びということですか、特に高齢者の方の利用が少ないということも私たちも危惧しておるところですので、そういった方がどれぐらい使っているか等の情報を得ることができると思いますので、終わった段階で各関係機関、もちろん庁内でも情報共有しながら、今後の事業について検討する材料としたいというふうに思っています。

残念ながら男女比というのが今回これでは掌握できないということですが、非常にデータとしても期待しているところです。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）経済推進部に関してはこのデジタル化という取組が幅広く可能性がある分野であると思いますので、先ほどの農業だけじゃなしに多方面にわたっておりますので、この辺りはしっかりと、ほかの自治体の取組なんかも参考にしながら、さらに利便性を向上していただければなど、市民の方の利便性向上に向けて取り組んでいただきたいなというふうに思います。

そのアプリ、すばらしいものでもあると思いますけども、やっぱりお年寄りの方にとってはなかなか使いづらいというのがあるかも分かりませんので、その辺のサポートもしっかりお願いしたいなというふうに思います。

今、代表して三つの部門についてお聞きいたしましたけど、それぞれの分野、さらにあり

ますので、そういった分野でもさらにこういった各自治体の例を参考にしながらDXを推進していただきたいと思いますが、その点はいかがでしょう。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）暮らしやすさ、地方に居ながらにして、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会をめざすというのがこのデジタル田園都市国家構想の基本的な考え方だと思いますので、それに向けて私ども橋本市のほうも進めていきたいと思えます。

今後につきましては、各分野の課題につきまして、DXの活用について、各省庁の補助金でありますとか、それからデジタル技術を活用した民間サービスなどについても研究を深めまして、費用対効果も見ながら、必要な部分については計画的にデジタル化を進めていきたいと考えております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）ありがとうございます。そのためにこの橋本市としてはDXの推進計画を今策定中だったと思いますが、昨日ちょっとお話あったかと思いますが、この計画の策定はいつをめどに完成させるということだったのでしょうか。もう一度教えてもらえますか。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）計画の策定については今年度中を考えております。今、各部のほうに、各部で取り組む、もしくは取り組んでいるDXに関する調査をして集約をしまして、まだ、今、議員がご紹介いただいたようないろいろな取組例もございますので、その辺もまた各部に下ろしまして、また検討させていただきたいなと思っております。

今年度中に計画を策定するというので、DX推進本部の会議もまた順次進めていき

いと考えております。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）もう本当に橋本市としてはまだ、言えばまだスタートを切ったばかりということでもあります。ですので、こういうことができますという提案はさせていただきましたけれども、それぞれをやっぱり実現していただくのは各それぞれの担当者の方々になりますので、これはもう総合政策部だけがリードしてやるのではなく、各全庁的にこういうことができるというのを分かっていたいて、もう各自治体では取り組まれてというのを分かっていたいて取り組んでいただきたいなというふうに思います。

ですので、この1年間しっかりとまた計画を立てて、それに向かって取り組んでいただきたいと思えますし、あるかどうか分かりませんが、また来年もし夏のDigi田甲子園があったとしたら、ぜひとも橋本市でもエントリーしてみようかなというような意気込みで取り組んでいただけたらと思えますが、いかがですか。

○議長（小林 弘君）総合政策部長。

○総合政策部長（土井加奈子君）このDigi田甲子園のホームページを見せていただいて、同じような取組を本市でもしているなという気づきもございました。なので、めざすところは、ぜひエントリーができるようになればとは思っています。取り組んでまいりたいと思えますので、またお願いします。

○議長（小林 弘君）4番 森下君。

○4番（森下伸吾君）この辺はもう部長の強いリーダーシップで、ぜひともみんなで登録するんだという思いがあれば、また皆さんもそれに乗って、しっかりとアイデアを出して取り組んでいただけたらと思えますが、ここはもう部長のリーダーシップにかかっているということですので、もうやろうと、

やるんやということで、市長からもこれはもう命令やというような形ぐらいまで、市長も言われていますので、DXの推進という面では言われていますので、ここはしっかりと部長がリードを取って、来年のD i g i 田甲子園でぜひとも優勝できるぐらいまで期待をしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（小林 弘君）4番 森下君の一般質問は終わりました。

この際、10時20分まで休憩いたします。

（午前10時9分 休憩）
